

函館市地域支えあい推進協議体 平成28年度 第1回会議  
会議概要

■ 日 時

平成28年5月30日（月） 18時30分～20時30分

■ 場 所

函館市役所8階 第1会議室

■ 議 事

議事

- (1) ボランティア養成講座について
- (2) フォーラムの開催について
- (3) 函館市の介護予防・日常生活支援総合事業実施方針（案）の変更について

■ 配付資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 ボランティア養成講座について
- ・ 資料2 介護保険による生活援助として提供可能なサービスの内容
- ・ 資料3 介護保険による生活援助として提供できないサービスの内容
- ・ 資料4 平成28年度ボランティア塾（案）
- ・ 資料5 フォーラムの開催について
- ・ 資料6 函館市の総合事業実施方針（案）の変更について
- ・ 資料7 訪問型サービス（変更前・変更後）
- ・ 資料8 通所型サービス（変更前・変更後）
- ・ 資料9 次回スケジュール確認票

■ 出席委員（10名）

池田委員，所委員，渡邊委員，佐々木委員，酒井委員，阿知波委員，  
永澤委員，能川委員，林委員，丸藤委員

■ 欠席委員（1名）

山本委員

■ 傍 聴 なし

■ 報道機関 2社（函館新聞社，北海道新聞社）

■ 市職員

高齢福祉課 佐藤課長，黒田主査，岩島主査，塚本主査，相澤主査，  
二木主任，古口主任技師，田畑主任主事

## ■ 会議要旨

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) ボランティア養成講座について

池田会長

---

議事（1）「ボランティア養成講座について」、まず、市から説明願いたい。

相澤主査

---

（資料1「ボランティア養成講座について」

資料2「介護保険による生活援助として提供可能なサービスの内容」

資料3「介護保険による生活援助として提供できないサービスの内容」を説明）

引き続き、ボランティア塾に関しては、丸藤委員から説明する。

丸藤委員

---

（資料4「平成28年度ボランティア塾（案）」を説明）

池田会長

---

まず、丸藤委員から説明のあったカリキュラムの内容について、丸藤委員にいろいろ想定される内容を盛り込んでもらったが、これ以外にこういった内容を入れれば良いのではないかという意見があれば伺いたい。

渡邊委員

---

事前に資料を見て思ったが、1-1講「超高齢社会の現状と高齢者を取り巻く実態」の中の「③認知症について」の部分では、今後認知症の高齢者が増えていく中で、サロンに参加しているMCI、いわゆる軽度認知障害の方々について学ぶこともこれに含まれてくるのではないか。そう考えると、せめて認知症サポーター養成講座程度の内容は知っておいたほうが良いのではないか。

池田会長

---

認知症について、認知症サポーター養成講座程度の内容を盛り込んだほうが良いのではないかとこの意見が出たが、他にあるか。

能川委員

---

認知症を少し時間をかけて学ぶべきという意見について、私もそう感じる。

受講料無料という点に関してだが、私の知っている何人かの方々から、自分の知識習得のために市の養成講座を受けたが、講座目的のボランティア活動としての参加には関わるつもりでなく終わってしまったと伺った。このようなことから、私は受講料を徴収しても良いと思う。無料にすると、安易に考えられるのではないかと、あくまで私個人の意見であるが。

開催の曜日に関しては、土・日より平日に参加できる方のほうが今後、ボラン

ティアとして活動してもらおう点で、良いのではないかと思います。

また、ボランティアという表現は私の中では圧倒的に無償という意味合いで広く認識されていると感じるため、ボランティア養成という表現はどのようなかと感じる。

カーリンコンは私の所属している会でも取り入れているが、「ふまねっと」も行っている。どちらかというところ、「ふまねっと」はいろいろな施設で取り組まれており、カーリンコンは多少認知度が低いと思うので、「ふまねっと」も検討して良いのではないかと。

#### 丸藤委員

私は池田町の方と親しくしているので、今年度の第2回目の時に「ふまねっと」をやるとか検討できると思う。別に「ふまねっと」がダメとか言っているわけではなく、すぐに体験することができるということで、カーリンコンがやりやすいと思っているが「ふまねっと」もすごく良い取り組みなので、いずれは取り入れられればと思う。

それから開催の曜日に関してだが、実際に活動してもらおうことを考えると、土・日しか参加できない方は、研修終了後も土・日でしか活動できないということになるかもしれないので、平日参加できる方のほうが、より望ましいと思った。

また、ボランティアという表現も確かにそのとおりで、あくまで現在は仮のタイトルとしている。例えば「丸ごとサポーター」や、「くらしサポーター」など、ボランティアを使わない表現が良いという場合は、それを使っても良い。

#### 池田会長

カリキュラムの内容は変わるかもしれないが、第1回で終わることはない。第2回、第3回と開催するときに、適宜追加等を行っていくということ。

#### 丸藤委員

第1回を行った際に、いろいろ改善点も出てくると思う。それを踏まえて第2回・第3回と続けていく。

#### 池田会長

その他に何かあるか。

#### 所委員

認知症については、MC I（軽度認知障害）が実際どのような状態でボランティアとしてそのような方にどう対応するか、また、普段会話の中で問題を感じていなかった方が意外なことを言ったとき、「何かが違う！」と気づくことができるよう、認知症の事を知ることが大事と思うので、認知症サポーター養成講座を受講し認知症の症状や支援法などを知る事が、認知症を学ぶ上での第一歩になるのではないかと。

また、カリキュラムの中にまったく医療的なことが無いので、糖尿病の方、高血圧の方、腰痛の方などに対する支援で気を付ける事を入れた方が良いと思う。

#### 丸藤委員

ちなみに今、糖尿病、高血圧、腰痛が出たが、それ以外もあれば教えてほしい。

#### 渡邊委員

---

病名というよりも特性で、さわやか福祉財団で発行しているテキストには、最初に高齢者の特性と疾患、感染という内容が出てくる。そのような内容について、さわりだけでも入れた方が良い。

#### 池田会長

---

大体見えてきた。これだけ出そろったので、カリキュラムのどこかを削らなくてはならないのではないかな。

#### 丸藤委員

---

共通認識として学んだほうが良いということであれば、20～30分長くなっても、まずはカリキュラムに入れることで考えたい。

#### 池田会長

---

では、開催日について、平日と土・日のどちらが良いか。

#### 佐々木委員

---

デイサービスは日曜日にほとんど営業していない。

また、カリキュラム案では、見学に90分の時間をとっている。実際いろいろな人が見学に来るが、せいぜい10分、15分くらい。

1つの事業所が利用者のいる中で、どれだけ見学に時間をつくれるのかが心配である。今はいろいろなデイサービスがあり、リハビリに特化しているところもあれば、レクリエーションを中心に取り入れているデイサービスもある。事業所によって、時間も内容も異なることから、受講者にどの部分を見てもらうかで、選ぶデイサービスも変わってくると思う。

#### 池田会長

---

見学場所は要調整ということになっていることから、市内の何か所かを選択して、1か所で10分～15分見るということではないのか。

#### 佐々木委員

---

イメージ的には、座学をどこかでやって、そこにバスを用意し、座学終了後、1・2か所を見学するということが良いか。カリキュラムの時間は、移動も含めた時間なのか。

#### 丸藤委員

---

1か所で90分見学ということではなく、当然移動時間が必要となる。10分ずつ2か所の見学を行っても、移動で市内を回ると90分かかることになる。

参考までに、施設の規模もあると思うが、1か所に何十人も見学に来るとするのは問題があるか。

#### 佐々木委員

---

そのような受け入れ態勢ができる事業所は、数に限りがある。5～6人が適当だと思う。

#### 丸藤委員

---

50人だと何回かに分けるということになる。

#### 阿知波委員

---

もう少し具体的に詰めてから案を提示すればよかったが、ポイントが分かっていたので、細かいところは改めて相談させてもらいたい。

#### 池田会長

---

デイサービスは土・日にほとんど営業していないこと、見学に何か所も必要になることから、開催は平日にしたいと思う。

#### 能川委員

---

カーリンコンだが、50人ということであれば、会場として学校の体育館等の確保が必要となる。横8メートル、奥行10メートルが1面として4面、バドミントンコートが4つとれるくらいの広さが最低必要となる。

#### 丸藤委員

---

場所はこのカリキュラムで対応できる場所を探したい。

#### 池田会長

---

カリキュラムの内容について、ほかに意見はあるか。なければ、今後、もらった意見を参考に、さらに詰めるということで良いか。

#### 丸藤委員

---

カリキュラムを詰める中で、また委員の方々にお話を聞くことがあると思うので、よろしくお願ひしたい。

#### 阿知波委員

---

日程の関係で、デイサービスの見学は平日が多くなると思うが、研修の会場やサロン開催日の関係で、基本的には平日開催でありながらも、場合によっては5日間のうち1日が土・日になることもあり得る。

#### 池田会長

---

デイサービスの見学は土・日を避け、サロン見学は土・日にするなど、日程はカリキュラムに応じて、臨機応変に決めていくことで、調整していけばよい。

他に必要なことがあれば、丸藤委員に連絡するという事。カリキュラムの内容はこのような方向性で行きたいと思う。

定員、1コマ当たりの時間、実施回数について、原案で良いか。

#### 丸藤委員

---

先ほど医療的なものを入れるべきとの意見があったので、1日目を少し長くし

ていく。

#### 阿知波委員

---

若干時間帯の微調整が必要である。

#### 池田会長

---

定員に関して、これ以上増やすのは、デイサービスの見学の受け入れのことを考えると難しいだろう。

開始はいつ頃にするか。

#### 丸藤委員

---

社協で7月15日に、在宅福祉委員向けの講座がある。ちょうど厚生労働省の加藤課長補佐が講師として来るということで、だからというわけではないが、第1回開始の目安として、そのあたりからスタートし、8、9月遅くても10月頭までに終える。そうすると引き続き第2回が10月中旬から年内にかけてできるだろうし、もしその先ということになれば、第3回が年明けからということになる。あまり遅くなると、第2回、第3回の開始が遅くなってしまう。

#### 池田会長

---

仮に7月から開始とすると、準備期間が1か月程度しかないが、進めることはできるのか。

#### 丸藤委員

---

そこは頑張って準備する。8月開始になるとお盆が入ってしまい、すぐ9月になってくる。今日の段階でいろいろな意見をもらったので、最初にできるのが、7月中旬と考えてもらえればと思う。あとは受講者がどれくらい集まるかだ。

#### 池田会長

---

開始を7月中旬頃とした場合、市は日程的に何か不都合なことはないか。

#### 相澤主査

---

日程に関しては問題ないが、市政はこだてによるPRは、すでに7月分の掲載が締め切られているため、市のホームページへの掲載等、可能な限り広くPRできる手段を検討したい。

#### 阿知波委員

---

PRの手段としては、マスコミへの掲載依頼もできると思う。

#### 佐藤高齢福祉課長

---

社協のボランティア講座のPRはどのような形で行っているか。

#### 阿知波委員

---

新聞、ホームページを使いPRしている。ほぼ定員数が集まる。

池田会長

---

7月の夏休み期間中であれば、学校の体育館も借りることができるだろうし、7月中旬に開始して、7月に1日、8月に1日、9月に2日、10月の頭に1日の開催が望ましい。ちょうど重なるような感じで、10月から第2回目を始めていくという流れでどうか。

あとは各委員がカリキュラムのどの部分で協力ができるか。ここで決めるか、それとも委員の方々に今後直接打診して決めるか。

阿知波委員

---

方針だけ了解もらえれば。

池田会長

---

方針は皆了解している。協力依頼を受けないとはならない。

丸藤委員

---

それであれば私や阿知波委員から打診をさせてもらいたい。

池田会長

---

講師が決まったら、カリキュラムに講師の名前を記載して進めてほしい。

では次に、養成されたボランティアの対応に入る。修了証をどうするかについてだが、いかがか。

丸藤委員

---

3ヵ月、全5日間の講座になるので、モチベーションや充実感を消さないために、何らかのお出しできるものがあると、さらに頑張ろうと思っただけなのではないか。

池田会長

---

私も修了証はあったほうが、意識付けもできるし良いと思うが、どうか。

各委員

---

(異論なし)

池田会長

---

それでは修了証はお渡しするという事。

林委員

---

確認したいが、カリキュラム5日間すべてを受講しなければ修了証は出ないのか。私たちのように平日仕事をしており、5日間のうち1日出られないこともあると思うが、4日でも修了証が出るものなのか、それとも、別の機会に受講して5日になった時に修了証が出るのか。その辺をどのようにお考えか教えてほしい。

丸藤委員

---

私の個人的な思いだが、それほど厳密にしなくて良いと思う。1日目の最初の

30分で帰られるのは困るが、ある程度の回数に出席すれば大丈夫ではないか。

池田会長

それはダメではないだろうか。今、林委員が言ってたとおり、妥協点を見つけてるのであれば、第1回の5日目は出られなかったが、日程の都合で第2回の5日目に出られるならば、その段階で修了証を発行すれば良い。

丸藤委員

第1回と第2回の5日目のカリキュラム内容は、変わる可能性があるが。

池田会長

それこそ厳密に考えなくても良いのではないかとにかく5日間受けるという形を作るのが大切である。

丸藤委員

それでは全部で5日間受ければ良いという方向で考えたい。

池田会長

次に、先ほどの能川委員からの意見のように、ボランティアと名前が付くと無償という意識を持たれてしまうことから、養成講座について、ボランティア養成講座ではなく、何か別の名前を付けたほうが良いのではないかとということについて資料1の中に例として「生活・介護支援サポーター」、「地域支援サポーター」、「地域支えあいボランティア」が挙げられている。これらの他に何かあるか。

永澤委員

微妙ではあるが、「地域支えあいサポーター」が入っていないので、いかがか。

池田会長

「地域支えあいサポーター」、その他にないか。

所委員

地域支えあい推進協議体なので、「地域支えあい」という表現は入れたいが、「支えあい」と「サポーター」はかぶっているような気がする。

酒井委員

良い呼び名は思い浮かばないが、「支援する」という表現は固いように感じる。

永澤委員

他の都市で使っているところはあるが、「くらしサポーター」はどうか。

丸藤委員

確かに「くらしサポーター」はある。略すと「くらしサポ」になる。

池田会長



そのような略称は良いと思う。CMなどでも略称は流行っている。「地域支えあいサポーター」だと「ちいサポ」となってしまう。

「くらしサポーター」の「くらし」の部分は漢字ではなく平仮名で。皆さんの意見を聞く限り「くらしサポーター」で決まりのような雰囲気であるが、それで良いか。

各委員

---

(異論なし)

池田会長

---

それでは「くらしサポ」ということで。

丸藤委員

---

講座のタイトル等もそれを踏まえ修正したいと思う。

佐藤高齢福祉課長

---

「くらしサポーター」で考えていくが、念のため登録商標の確認だけさせてもらいたい。

池田会長

---

それでは基本的には「函館市くらしサポーター」、「くらしサポ」で決定ということで。

次は養成されたボランティアの登録やマッチングをどのように行うのかについて、市から説明をお願いしたい。

相澤主査

---

実際に養成した人材と活動の場を繋いでいく仕組みに関し、少し前に阿知波委員にお尋ねしたが、ボランティアと活躍の場のマッチングを社協がやっていると聞いていたので、現にある機能を活用して、マッチングできないだろうかと考えている。

池田会長

---

養成し認定された人は、社協の方に登録するというので、阿知波委員どうだろうか。

阿知波委員

---

即答できないが、私どもの体制の整備、条件を整えば、そこは可能ではないかと思う。

池田会長

---

条件というのと。

阿知波委員

---

今の体制でやろうとすると、スタッフに負担がかかるため、兼務できるのか等

相談したい。社協内部で協議・報告が必要になってくる。

相澤主査

---

実際にマッチングを社協でやってもらえると助かるが、もし業務量的に問題があるということであれば、私どもにその旨連絡をお願いします。

池田会長

---

次に、養成されたボランティアが連携・協力することで活性化が図られる地域資源について、何かあるか。能川委員どうか。

能川委員

---

今は考えられない。実際に養成を受けた方と話をしたほうが良いアイデアが出ると思う。

相澤主査

---

この論点については、町会や在宅福祉委員会との連携などが想定できるのではないかと思い記載した。

丸藤委員

---

今の在宅福祉委員会や町会、NPOのいろいろな活動内容について取りまとめた資料を用意しておき、受講された方からそのような情報が欲しいと要望があれば、提供できるようにしておくことは可能なので、そのようなものを作っておくことはできる。このような情報をコーディネーターや協議体も蓄えておくというイメージで良いだろうか。

相澤主査

---

良いと思う。今の提案はマッチングに近いような形であり、そのような情報を受講者に提供できる体制にしておくことが望ましい。

阿知波委員

---

養成したボランティアの登録とマッチングについては、今回だけに限るのであれば社協として問題ないと思うが、今後26万人都市で大規模にやっていくというビジョンがある場合、入念に議論していかなければならない。

池田会長

---

とりあえず市で準備した論点はすべて終了した。最終的なボランティアの名前については、市に一任したい。

## (2) フォーラムの開催について

池田会長

---

議事(2)「フォーラムの開催について」、市から説明願いたい。

相澤主査

---

(資料5「フォーラムの開催について」に基づき説明)

池田会長

---

それではフォーラムの構成について、タイプBというのが原案であるが、ワークショップを行ったほうが良いというのであれば、タイプBということで、決定となるかどうか。

各委員

---

(異論なし)

池田会長

---

それではタイプBで決定したい。

次に、時間の配分、定員、講師の数は原案で良いかということだが、基調講演は1人で良いか。事例報告も市内1名、市外1名か市内2名ということであるが、これも市にお任せということで良いだろうか。人選については、それぞれ適任となる方に打診してくれればと思う。

ちなみに今、市から説明があった原田正樹氏は、日本福祉大学副学長で、地域福祉にすごく精通している方で自分でボランティアの地域を持っており、いろいろな場面で活躍している。函館にも何回か来たことがある。日程が合えばその方をお願いしたい。先方の都合に合わせると、開催は8月になるが、何月頃に開催する予定か。

相澤主査

---

この時期が良いというご意見はあるか。

無ければ私どもで日程を考えたいが、8月はどうか。

丸藤委員

---

ボランティア塾をやりながらというのも難しいが、8月は前半に港まつりが開催され、お盆の時期にもかかるため、結構集客が大変な1か月だと思う。気分は夏休みと感じる人も多く、他のイベントでも8月は夏休みで避けてということになるため、9月か10月が望ましい。

相澤主査

---

10月に第2層のコーディネーターや協議体の設置が始まる予定であるため、早くて9月ということ考えたい。

池田会長

---

9月ということであれば、原田氏は難しいかもしれない。そうなったらまた考えるということ。

次に、フォーラムを活用したPRについて、各委員でフォーラムを通じてPRしたいことはあるか。恐らくフォーラムは時間を一杯使うので、時間的な余裕は無いと思う。

また、フォーラム終了後のアンケートについて、丸藤委員が原案を考えて、各委員に確認をとるということで良いか。

各委員

---

(異論なし。)

池田会長

---

それでは今のたたき台で、市に一任して進めていくことでお願いする。

相澤主査

---

今の意見を参考にしながら、内容が固まり次第、皆さんに連絡したい。

### (3) 函館市の介護予防・日常生活支援総合事業実施方針(案)の変更について

池田会長

---

議事(3)「函館市の介護予防・日常生活支援総合事業実施方針(案)の変更について」、市から説明願いたい。

相澤主査

---

(資料6「函館市の総合事業実施方針(案)の変更について」

資料7「訪問型サービス(変更前・変更後)」

資料8「通所型サービス(変更前・変更後)」に基づき説明)

池田会長

---

それでは、論点1つ目の「基準緩和型訪問サービスの担い手を高齢者に限定しないこととして良いか」について、酒井委員どうか。

酒井委員

---

この点については、まったくこのとおりで、今でも専門職である私たちも高齢化してきているので、少しでも40代、50代の3級程度でもやってみたいと思っている方を対象にして年齢幅を広げた方が、対象者が集まりやすいと思う。

池田会長

---

反対意見はありますか。

特に無いということによろしいか。

各委員

---

(異論なし)

池田会長

---

それでは論点2つ目の「基準緩和型通所サービスを全般的に見直して良いか」について、佐々木委員どうか。

佐々木委員

---

もともと二次予防でやっていた事業所もあるし、そのまま総合事業でやっていくという捉えであれば、この見直し案で良いのではないか。

池田会長

---

反対意見はありますか。  
特に無いということによろしいか。

各委員

---

(異論なし)

池田会長

---

それでは、協議体としてこの変更を了承したい。  
これで議事がすべて終了したが、各委員から何かないか。  
特に無いようなので、進行を市にお返しする。

相澤主査

---

これをもって、函館市地域支えあい推進協議体の平成28年度第1回会議を終了する。